



令和6年度 11月の園だより

第二みみようこども園

「安心」って、力になる

先月の東雲みみようフェスティバルはあいにくの雨でしたが、たくさんの方にお越しいただきありがとうございました。ゲームコーナーではひまわり会をはじめ保護者の皆様にお手伝いのご協力をいただき感謝申し上げます。不行き届きのところもあったかと思いますが、混雑時の食堂で、座る席を探している方に、「ここ相席できますよ。」と声をかけてくださった保護者の方がいらっしやうと職員から聞きました。優しさに頭が下がると共に、コロナ禍には考えられなかったことですから、こうしてみんなと一緒に集い、楽しいひと時が過ごせたことにホッとしております。

今年度は、みみよう保育園もフェスティバルの会場に広げて開催しましたが、雨の中でも幼児クラスの子どもたちや卒園児がたくさん遊びに行っていたようで、絵の具やスライムなどで楽しんだようです。当園でも園内は、たくさんの方のおしゃべりや笑い声などで終始賑やかな雰囲気になっていました。そして、日頃から子どもたちが興味を持っていること、それを具体化していくのに様々な素材を使って、友だちと考えたり工夫してきたことが、子どもたちの姿を捉えた写真や発達の姿の解説などからも理解していただけたことと思います。子どもたちは保護者の方に見てもらおうのを楽しみにして、「お客さんがくるぞ!」と、ワクワクしながら準備を進めていました。その中で、小さな赤ちゃんたちも遊ぶことを考えて、玉転がしのビー玉は飲んだら危ないよねとか、芝滑りは頑丈にしないとねなどと、どうしたらみんなが楽しく遊べるかを考えてくれていました。自分がやりたいことを実現していく中で、来てくれる誰かのことを思いながら、試行錯誤していくこと。そのことも大事な学びです。会場で保護者の方と一緒に遊びながら「ここ、素敵だね。」「おもしろいね。」と、共感してもらえたことが、満足感や達成感となったことでしょう。まだまだ各学年で海の世界や化石発掘は繋がっています。小さなちいさな紙で折鶴を折ることも感心するほど上手になっているのですから、ここからまたどのように子どもたちの思いは広がっていくのでしょうか。まだまだ楽しいことは続きます。

さて、右のドキュメンテーションにもありますが、やっと涼しくなって戸外へと出かけていく小さな子どもたちは季節の変化や身近なものや人への関心を毎日の生活の中で広げています。しかも、こんなことができるようになったの? と、びっくりするような場面にもよく出会います。園庭をあちこちに歩き始めたひよこ組さんが、小さいほうの滑り台に登って、頭から滑り降りていたり、みどり組さんは自分の靴箱の位置を覚えて、履こうとする姿もあります。もも組さんは、自分で靴下や靴を頑張って履いて、勢いよく走って好きな場所に行っています。M字雲梯に登っては足抜きをしてジャンプして降りるなんてことも繰り返すようになってはらはらしますが、職員がすぐに助けられるように側で見守ってくれています。“自分でやる・自分の好きなことで遊ぶ”そんな子どもたちが可愛すぎてたまりません。

みみようでは、「感謝と思いやりのある自主的な行動のとれる子」を保育理念として、子どもたちが登園してきた時から帰るまで「なんだろう」「やってみよう」と、自ら関わりたくなるような多様で豊かな環境の中で遊ぶことを大切にしています。フェスティバルの会場で、子どもたちの自由な発想や表現を感じていただけたように、日々の生活のすべてがあそびであり、学びです。園生活の中で、たくさんの仲間と考えたり工夫すること、協力して最後までやり遂げることや、我慢すること、それらは目には見えない力ですが、これからの時代に大切な生きる力の基礎、学びに向かう力が育まれています。子どもが「安心」して好きなことがとことんできるように応援していきたいものです。それから大事なことをもうひとつ。一人ひとり好きなことや得意なこと、考え方も違っているということも大事にしながら、誰かと比べることなく子どもの思いを大切にしていけたなら幸いです。

園長

実物大の折り鶴です。
しろ組さんが折りました。



第二みみようこども園の

ハッピー☆



季節はすっかり秋ですね!

気持ちの良い秋空のもと、子どもたちのハッピー☆もあふれています。



もも組さん、公園にお散歩の日。K君が突然「わあ〜!!」と声をあげながら走り出します。そして「あかいねえ」と、一言。大きな木の葉っぱが赤く色づいていることに気づいて感動した様子です。“あかい葉っぱきれいだな”って感じる心が育っていることに嬉しくなりました。

「かめさん」と、保育者の手を引いてかめの水槽まで連れて行ってくれました。かめがのっそり水面から顔を出す様子や、口をパクパク開け閉めする様子が目がくぎ付けで、長い間水槽の前から離れないMくん。好きなことに夢中になる表情は、子どものパワーを感じます。



箱の中と外で、お顔が見えるたびに「ばあ〜」と、2人一緒に思いを合わせて大笑いです!こんなに小さな頃から、お友だちと関わって、“たのしいね”って、心を通わせる姿が愛おしいですね。



子どもは、まわりの環境の中で自らいろいろなことを感じ、考えていく力があります。子どもの何気ない毎日に意味があって、育ちにつながっているということを、わたしたち大人が感じながら、一緒に喜んでいきたいですね!

主任